



鳥山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

# 第27回 抗議デモ・学習会

## 11月9日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 鳥山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 鳥山区民センターホール

### 講演 カルト宗教をめぐる被害者救済と法律問題

久保内氏は弁護士として、統一教会、摂理の被害者救済に力をそそぎ、被害者の親族、脱会した元信者などから直接相談を受け、体験談を聞き、裁判手続きを通じて、金銭面での被害救済も行ってきました。

さらに、全国カルト対策大学ネットワークの発起人として、大学のカルト対策にも関わっています。今回の学習会では、これまでに数多くの相談等を通じて見聞した、脱会者等の具体的な体験談を紹介しながら、カルト宗教をめぐる被害者救済と法律問題について、若き知性派弁護士に講演をしていただきます。

講師：弁護士 **久保内 浩嗣 氏**



**経歴**

2001年(平成13年)3月 東京大学法学部卒業。  
2004年(平成16年)4月 司法研修所入所(58期)。2005年(平成17年)10月 田村町総合法律事務所入所。  
(所属等) 第二弁護士会 刑事弁護委員会、民事介入暴力対策委員会、全国霊感商法対策弁護士連絡会。

### 連載 オウム真理教との闘いは続く ①

元住民協議会会長 倉本俊幸氏に聞く

「住民協議会のような活動は、無理をしたら長続きしませんね」終始温和な笑顔をたたえ、語りかける口調には説得力があります。2001年1月の住民協議会の設立から、2007年までの、オウム真理教との闘いが最も激しい時代に、会長の重責を担っていたとき、現在は名誉会長として活動に参加していたといいます。地下鉄サリン事件から5年目に、鳥山地域に集団入居したオウム真理教に「異常な恐怖を覚えた」「信仰のためならどんなことでもやる集団」との思いは強く、行政から会長の話があった時は、それなりの覚悟があったと話してくれました。当時全国のオウム真理教施設周辺は、幹部の村井秀夫が何者かにより殺害されるなど、住民との争いが絶えることがありませんでした。住民協議会の活動が3年目に差し掛かる頃、一部の会員

から強硬な方針が提案され、協議会内部が混乱したことがありました。そのような場合でも「住民協議会の活動は誰もが無理なく出来る活動」との信念から、会長の責任でその方針を断念させたことがありました。残念なことに、一部の会員が脱退することになりましたが、住民協議会の継続にはやむを得ませんでした。その後倉本さんは、世田谷区町会・自治会総連合会会長に就任されますが、地域の活動をオール世田谷に発展させた功績は多大なものがありました。「この活動は根くらべだから、先に白旗を上げた方が負け、会員の一人一人が色々考え、活動を継続することが大切」と助言をいただきました。インタビュも終わり、席を立ちました。徳富蘆花に造詣の深い倉本さんに興味深い話を伺い、少々時間が経過してしまいました。

### 上祐史浩という人物の考察

その1

#### 地下鉄サリン事件後の上祐

1995年の地下鉄サリン事件は、国内内外を問わず多くの人に衝撃を与えた。現ひかりの輪代表、上祐史浩は事件時ロシアにいたが、急遽帰国し、テレビを始めマスコミに顔を出し「サリン事件はオウム真理教の仕業ではない」と叫び続けたことは記憶に新しい。「ああ言えば上祐」と言われたのは、この頃のマスコミでの対応からである。

そんな上祐の対応に、国民の多くが違和感を感じたが、上祐は麻原の片腕とも言われた人間で、事件への対応までを否定するつもりはない。しかし上祐の言動は社会的常識から

見れば、死者13名、負傷者約6000名以上という、かつてない無差別テロ事件との認識が欠けていた。さらに現在シリアでの化学兵器の使用が問題になっているが、サリンは猛毒で、その化学兵器の一つにも数えられる恐ろしいものだ。

#### 上祐の人間性

当時マスコミでの上祐の対応は、自己の言葉に酔い、自信に溢れているように見えたが、上祐の言葉を鵜のみにする国民は誰一人いなかった。それでも連日マスコミに登場し、サリン事件を否定し続けた上祐という人物の根底にある、人間に対する愛情の欠如を多くの人が感じた。あの時、事件で死傷した被害者や、その家族の心情を思いやる気持ち

(裏面へ続く)



がほんの少しでもあれば、オウム真理教の仕業ではないとは言えなかつた筈である。さらに、事件当時上祐はロシアに在住し事件への関与は見あたらず、逮捕はないとの考えから、あのような気楽な言動に及んでいたとしたら、上祐の人間性をも問われる深刻な問題である。

上祐の本心はどこにあるのか？

今から7年前、上祐はアレフから脱会し、ひかりの輪を設立、活動を継続しているが、現在の上祐は地下鉄サリン事件当時より一層饒舌となり、ひかりの輪や自身の変化をアピールすることに懸命になっている。特筆すべきは、ひかりの輪と上祐のオフィシャルサイトに、評論家・映画監督・作家・プロレスラー・右翼の大物などとの対談が掲載されているが、そのどれもが上祐の人間性の賞賛に終始している。上祐は対談が得意と見え、次から次へ様々な人物と対談し、まさにひかりの輪の宣伝塔と化している。また、ひかりの輪は教祖を置かないことを自慢げに語っているが、オフィシャルサイトの上祐は、教祖以上の扱いで、その振る舞い、語る様子に違和感が残る。さらに別の視点から見ると、オウム真理教時代の活動を反省、元教祖、麻原彰晃からの脱却を表明し、危険の無い団体を標榜する上祐であるが、この人物ほど、どこに本心があるのか分り難いと思っているのは、私一人ではないだろう。本心をいずこかに置き忘れて来てしまった上祐史浩という人間を、今後も見極めたいかなければならない。

## 埼玉県八潮市オウム真理教施設を取材

9月12日八潮市オウム真理教施設へ取材を行った。高速に乗ると都心からも交通の便が良く、比較的スムーズに目的地に到着した。八潮市で最近頻りにセミナーが行われていることを知り、二度目の取材となった。

今回は最初に八潮市役所に伺い、現地の様子などを取材。施設には出家信者が19名居住し、年齢は10代後半から70代と幅広く、女性信者の多くは毎日パートなどで働いており、普段は静かである。セミナーは例年5月・8月・12月の連休に行われるが、今年は9月の連休にも予定されているらしい。今まで住民登録を受け取らない、公共の施設を貸さないなどの策を講じたが、結果的には居住することになった。高速にも近く、元教祖麻原彰晃が収監されている小菅拘置所にも近く、オウム真理教本部がある足立区とも隣接しているなど、目を離せない部分が多く、危険団体であることには変わりはない。今年度は八潮市がオウム真理教対策関係市町村連絡会の副会長でもあり、積極的に署名活動など行っていきたいとの、市役所担当者のコメントでした。

八潮市オウム真理教対策協議会の活動としては、年1回12

月に近くの公園に参集して抗議行動を行い、施設までデモ行進をして、要請文を手渡している。参加者は250名くらいで、45町会・自治会が中心となり行っている。又、施設の周りを見ると共に、近くの町工場の住民に話を聞いた。普段は人の出入りも少なく、近所づきあいもなく、セミナーがある時だけは警察や公安調査庁の人たちが集まるので、その時だけはオウム真理教施設の存在を自覚している。町会・自治会では、ボランティアとしての活動に限度を感じて、監視活動をやめたと聞いている。現在監視小屋は無人的な状態であると話してくれた。



## お笑い夏まつり会場で募金活動を行いました



今年も南鳥山りんれい広場でのお笑い夏まつり会場に、募金活動でおじゃましました。芸人さんの掛けあいに笑いあり、吹き出す笑顔あり又、かき氷を食べたり、焼きそばを食べたりとなごやかな会場でした。入口のところに場所をもうけていただき、募金のお願いをいたしました。小さな子ども達が募金をしてくれたり「俺たちも募金させてもらいます」と、中・高生らしき少年達の行為がとても有難いと感じました。いつもご苦労さまと声をかけて下さる多くの方々に感謝し、楽しませていただきながら、募金活動を行いました。

## 住民協議会活動報告

9月12日(木) 埼玉県八潮市オウム真理教施設へ取材  
9月13日(金) 実行委員会  
9月23・24日(月・火) 鳥山神社秋まつりで募金活動  
9月30日(月) 協議会ニュース129号初校正

10月7日(月) 協議会ニュース129号再校正  
10月8日(火) 事務局会議  
10月14日(月) 協議会ニュース129号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。